尾崎広道
自由クラブ

海岸部一般人の立ち入りについて

問 **倉舞港の漁業関係者以外立入禁止看板の禁止区域を伺う。**

答 埠頭用地全体への関係者以外の立ち入りを遠慮してもらうようお願いしている。

国道23号蒲郡BPのインターチェンジについて

問 **蒲郡IC上り線の出口標識がわかりにくく表示板も小さい。利用しやすいよう、管理者へ要望しているか。**

答 国へ標識に関する要望等は行っていない。大きな標識の設置は構造的に困難だったと聞いている。

問 **蒲郡西ICランプウェイは草が繁茂し、見通しが悪く危険である。管理者へ除草を要望しているか。**

答 岡崎国道維持出張所が、8月より順次除草を実施している。

市民病院外来部の患者待合所の施設整備

問 **長時間待つような時、呼び出しのシステムがあるとよい。待合室以外でも知らせる方法があるか。**

答 診察の順番が近づいた事を携帯電話に連絡する「まもなくコール」を運用しており、再来受付機の横に登録機械を設置している。

問 **整形外科等を受診する膝や腰の痛い人への対応はどうか。**

答 車椅子の案内や座高の高い椅子の用意等、患者に合わせた対応をしている。

まもなくコール登録機

太田哲也
公明党市議団

予防医療の推進について

問 **最近のがん検診の受診率の推移を伺う。**

答 新型コロナの影響により低下していたが、近年では徐々に上昇している。令和6年度は、肺がん14・5%、胃がん5・9%、大腸がん11・4%、乳がん9・3%、子宮がん11・5%で、コロナ禍前の受診率とほぼ同じ水準まで回復してきている。

問 **本市のがん検診受診率目標値を60%としたのはなぜか。**

答 国が策定している健康日本21では、69歳未満のがん検診受診率の目標値を60%としており、本市も同様に目標値を60%と設定した。

問 **受診率の把握における課題はあるか。**

答 会社など職域でがん検診を受診した方の情報は、市の受診率に反映していない。職域健診でがん検診を受けた方を把握することで、性別や年代、検診の種類などの傾向を正確に掴み、より効果的、効率的な対策を実施することが可能となるため、今後は把握する方法を研究していく。

問 **予防医療とヘルスツーリズムのかけ合わせを観光客だけではなく市民も利用することで、健康増進や意識向上につながると考えるが、その可能性を伺う。**

答 今後も、他市町村の事例等を参考に、商工会議所などと連携し、その可能性に取り組んでいきたいと考える。

牧野泰広
自由クラブ

がまっと!について

問 **がまっと!の活用における将来的なビジョンを伺う。**

答 集約されたデータを用いたEBPMの展開や部署横断型のDX化などを進めることで、市に関わる全ての人が心豊かな暮らしの変化を実感できる施策展開につながると考える。本事業に取り組むメリットを周知し、参加してもらえる市民や事業者を増やしていくことに注力し、取組の検討を進めていく。

生と死の尊厳について

問 **厚労省の「持続可能な権利擁護支援モデル事業」に対する市の考えを伺う。**

答 現在は、福祉総合相談窓口などを担っている社会福祉協議会や、市内の地域包括支援センターと連携して支援に努めている。厚労省のモデル事業の進展を注視しつつ、関係機関との連携や課題整理を行い、対応策の検討を進めていく。

青色防犯パトロールについて

問 **広報車両の買換えに際し、市が補助する考えはないか。**

答 毎年、各地区の交通安全推進協議会に対して交通安全活動のための助成金を交付しているため、現時点では広報車両の更新に対し、個別の補助や助成を行う予定はない。

交通安全広報車